

幸徳秋水，社会主義の思想家

2014 年本試

問 1 苦しむ人々に対する支援に関する思想や実践の説明として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

1

- ① シュヴァイツァーは、生命への畏敬^{いけい}の念に基づいて、アフリカの地で医療と布教活動を通して、苦しむ人々への支援を続けた。
- ② 国境なき医師団は、世界各地の紛争地域や災害地で、けがや病気に苦しむ人々に対して、緊急医療支援活動を行っている。
- ③ 片山潜は、仏教の慈悲の精神に基づいて社会主義運動に携わり、貧困に苦しむ人々への支援や、労働者の地位の向上に努めた。
- ④ 国連難民高等弁務官事務所は、紛争や飢餓のために他国に逃れ、生命の危機にさらされて苦しんでいる難民に対する支援に取り組んでいる。
- ⑤ マザー・テレサは、「最大の罪は愛と隣^{あわ}れみをもたないことです」と述べ、修道女として、苦しむ人々への支援に生涯を捧^{ささ}げた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	③	3

2014 年追試

問 7 次のア～ウは当時の貧しい人々や女性など社会的弱者の問題について考えた人物の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

26

ア 北一輝は、貧しい農民や労働者を救うために、現状を変革し、富が平等に分配されるようにすべきだと訴えた。そのためには、天皇と国民が直結する国家の建設が必要だと考え、『日本改造法案大綱』を著した。

イ 与謝野晶子は、歌人として、自己の感情や官能を大胆に歌い、人間性の解放を主張した。また、「元始、女性は実に太陽であった」と主張し、女性の解放を求める運動を展開した。

ウ 河上肇は、『貧乏物語』を著すなど、貧困への対策の必要を説いた。彼は、内村鑑三やトルストイの影響を受けた人道主義者であったが、後には、次第にマルクス主義的主張に傾斜していった。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	26	③	3

2011 年追試

問 6 次のア～ウは, 国家社会や職業のあり方への発言や, 社会運動などを通して, こうした課題に取り組んだ思想家の説明であるが, それぞれ ^{だれ}誰 のことか。その組合せとして正しいものを, 下の①～⑥のうちから一つ選べ。 19

ア 木下尚江や片山潜らと社会民主党を設立した。キリスト教的人道主義の立場から, 「^{キリスト}基督教が精神的方面から平等主義を唱えるのに対し, 社会主義はまず経済上の平等を実行し, 漸次これを政治, 社会, 道徳の方面に及ぼそうとする」と, キリスト教の理想を社会主義によって実現することを主張した。

イ 中江兆民の自由民権思想の影響を受けて社会主義の思想を深めた。平民社を結成し, 機関紙『平民新聞』に「人間がみな技能に応じて職業をもつ。職業に応じて労働する。……遊んでいて生活できる者がなく, 労働して生活できない者がいない」国家の形成が, 「わが社会主義の主張」であると訴えた。

ウ 青鞞社を興し, 女性解放運動の中心的役割を担った。その機関誌『青鞞』に「それ自身意義ある女の生活のために, ……経済上の独立のない ^{ところ}処 から生ずる様々な不安や, 障害を取り去るために, 職業教育をも要求いたします」と, 「新しい女」の生き方を主張し, 女性の自立と社会的地位の向上を訴えた。

- | | | |
|-----------|--------|------------|
| ① ア 安部磯雄 | イ 大杉栄 | ウ 景山(福田)英子 |
| ② ア 新渡戸稻造 | イ 大杉栄 | ウ 市川房枝 |
| ③ ア 植村正久 | イ 堺利彦 | ウ 平塚らいてう |
| ④ ア 新渡戸稻造 | イ 堺利彦 | ウ 市川房枝 |
| ⑤ ア 安部磯雄 | イ 幸徳秋水 | ウ 平塚らいてう |
| ⑥ ア 植村正久 | イ 幸徳秋水 | ウ 景山(福田)英子 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	19	⑤	3

2009 年本試

問 7 中江兆民から唯物論的な思想を学んだ幸徳秋水についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 国は人民によってできたものであると平易に民権思想を説き，主権在民を謳い抵抗権を認める私擬憲法を起草した。
- ② 国を支える農業と農民を大切に考え，農民が苦しむ公害問題を解決する運動に身を投じ，その解決の必要性を説いた。
- ③ 東洋の学問を実生活に役立たない虚学，西洋の学問を実生活に役立つ実学と呼び，後者を学ぶことの必要性を説いた。
- ④ 社会主義の立場から，当時の帝国主義を，愛国心を たていと 経とし軍国主義を よこいと 緯とする 20 世紀の怪物と呼び，批判した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	20	④	3

2009 年追試

問 6 河上肇は『貧乏物語』を著し、当時の社会の矛盾としての「貧乏」について論じた。河上は、「貧乏」が単に経済的困窮ではなく、肉体(ボディ,「肉」)と知能(マインド,「知」)と霊魂(スピリット,「霊」)を健全に維持し、発育させていくことができない状態であると述べている。河上は、その「貧乏」を克服する方法としてどのようなものが理想的であると考えていたのか。次の文章を読んで、その説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

19

肉は霊のために存し、知もまた ^{ひつきょう}畢竟は徳のために存するに過ぎざるがゆえに、人間生活上における一切の経営は、窮極その道徳的生活の向上をおいて他に目的はない。……しかしてこの目的に向かって努力精進するの生活、それがすなわちわれわれの理想的生活であって、またその目的のために役立つ一切の消費はすなわち必要費であり、その目的のために直接にもまた間接にもなんら役立たざる消費はことごとく ^{むいたく}贅沢である。

(河上肇『貧乏物語』)

- ① 「貧乏」を克服するには、贅沢は控えるけれども、道徳の向上のための消費は必要なだけ行うことこそ理想的である。
- ② 「貧乏」を克服するには、経済的な貧困は甘受し、道徳の向上を目指して、皆が精進することこそ理想的である。
- ③ 「貧乏」を克服するには、社会が富者の財を再配分して、皆が贅沢を平等に手に入れることこそ理想的である。
- ④ 「貧乏」を克服するには、消費から距離をおき、自らの精神的向上に努力精進することこそ理想的である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	19	①	3